



医療福祉・在宅看取りの 地域創造会議 通信 第91号

(R3/7/6)

第93回ワーキンググループ会議 (R3.6.24)



「良かった」と思える最期を迎えるために ～施設現場から～

講師：滋賀県老人福祉施設協議会 顧問

/特別養護老人ホーム けやきの杜 施設長 藤居 眞さん

近年の特別養護老人ホームの状況



- 入所条件が要介護3以上に限定され、重度化が進んでいる
- 看取りを前提に入所する人や、看取り期で入所される人が増えているため、本人の意思を確認することが困難である
- 入所時点で本人の思いを聞けないと、家族の思いが中心となる
- 家族は本人が元気なうちに看取りについて話をしていないことが多く、いざとなったときに判断に迷われる
- 日常生活継続支援加算を得ることが施設の経営に大きく影響するため、入所者の重度化が進み、認知症の割合が高くなっている

💡決めたいときに、本人が話せる力を持っていることが少ない！

2015年度の介護保険報酬改定で

- ・日常生活継続支援加算が導入されたこと
- ・特別養護老人ホームの入所が、要介護3以上に限定されたこと

の2点が大きく影響していると考えられますね



特養の課題を解決するために私たちにできることは？

現在の特別養護老人ホームに必要なのは、 利用者が入所されるまでの、利用者の思いの詰まった情報

☆ご本人が元気な時から看取りまで、切れ目なく意思を確認できる積み重ねとしてのACPを継続！

☆ちょこちょこACP(参考：通信第90号)を早い時期から実施し、特養入所までつなげるだけでなく、どんな場面にも適用できるシステムを作ることが必要！

参加者の声

☆専門職であっても、ACPの知識が浸透していない者はまだまだ多く、患者がシグナルを発しているにもかかわらず、受け止めて記録に残すということができていない。そういう人たちがもっと勉強していかなくてはならないと感じた。☆自分はこの会議に長年参加しているので、日頃から家族に色々とお話しておくことは普通のことだと思っているが、一般人にはまだまだ浸透しておらず、いざという時に動揺する人が多くいると思う。

☆専門職としては、患者の最期までの思いをどんどん聞いて積み重ねていきたいが、それを積み重ねる仕組みが地域にはない。そこに難しさがあるのではないかな。

☆いつエンディングノートなどのACPを始めるのが良いか、そのタイミングが難しい。

☆災害と同じように、若い時から考える文化も必要ではないかな。

☆施設の看取りが増えていく中で、特養が良いケアを提供してくださっている。今後高齢者が増えていくことを考えると、特養が破綻しないために、地域が考えていくことが大切だと思う。

☆先がだいたい読める場合は家族も積極的に関わってくれるが、老衰などいつまで続くかわからない場合は、そのうち施設に入れることで解決してしまう。そのような選択が増えてきていると感じている。

☆施設の方も悩みながら支援されているのだなと感じた。介護制度が看取りの現場にとっても影響している。

☆気持ちが揺れ動く中で、誰がどういうふうに本人に聞くのが適切なのかな。信頼関係やタイミングはあるが、理想は、第三者(支援者)が家族のいるところで、仕事として淡々と聞くことで本音が出るのではないかなと思う。

【次回ワーキンググループ会議のご案内】

- 日時：令和3年7月15日(木) 18:30~20:00
- 場所：滋賀県庁 北新館5階 5-B会議室(Web参加可)
- テーマ：突然訪れた『生命の選択』=家族の立場から=
- 講師：久泉 和久さん・みちるさん ご夫妻

【令和3年度 総会・研修会を開催します】

- 日時：令和3年8月22日(日) 午後
- 場所：コラボしが21 大会議室(Web参加可)
- <研修会>
- テーマ：地域で取組む意志決定支援とは
～多職種がチームで取組む意思決定支援の実際と、
患者や家族の安心に届くケアとは～
- ※法医学、内科医、家族、学生のそれぞれの立場から、意思決定支援をテーマに討論します
- コーディネーター：角野文彦 事務局長



県庁の大会議室を拠点に、対面とWebで開催し、医療職・介護職をはじめ、製薬、研究職、学生、行政など、41名(Web27名、会場14名)の参加がありました。

2回目となったwebでのグループワークでは、進行・発表共に参加者にいただき、円滑に進めることができました。

少しずつ、対面で開催していた頃のやり方に近づけていきたいです。引き続き、ご協力よろしくお願ひします。

Thank you

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議運営事務局
(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

T E L : 077-528-3529

F A X : 077-528-4851

E-mail : info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp